

55)

柴苓湯の下痢に対する治療効果について

慈恵曾根病院 外科消化器科 内科*

○岡 進 中嶋義三 前川靖裕 中尾昌功 花島 淳* 永瀬公明*

目的 消化器外来では下痢はよくみかける疾患であり、通常止痢剤が投与される。止痢剤は効果良好であるが、逆に便秘に傾き、投与後の便通の管理に悩まされる事がある。また止痢剤の種類は少なく投薬幅が小さいのが現状である。投薬幅を拡げる意味で柴苓湯(ツムラ)を下痢に対して投与し、その効果を検討した。柴苓湯は小柴胡湯と五苓散の合方で水分調節作用に加えて、鎮吐、鎮痙、鎮痛作用もあり本剤投与は意義あるものとする。

方法 対象は13才から85才までの下痢を主訴として来院した外来患者53人、入院患者13人計66人である。これらに対し非随証的に柴苓湯を投与した。止痢剤、鎮痙剤を併用した症例もある。66人中6人の再来がなく60人で効果判定を行なった。判定は著効(投与後3日以内で下痢が治ったもの)有効(10日以内で治ったもの)無効の三段階で判定した。

成績 著効は60例中35例で58%、有効13例22%、無効12例20%で著効と有効を合せた有効率は80%であった。止痢剤(タンニン酸アルブミン、天然ケイ酸アルミニウム)との併用7例、単独投与53例であったが有効率は併用85%、単独投与80%と両者ともほぼ同値であり柴苓湯は単独投与で十分効果があつた。なお単独投与53例中腹痛のあつた症例の18例には鎮痙剤(臭化チキジウム)を使用している。効果発現は60例中1日目18例30%、2日目13例52%、3日目9例67%累積と効果発現は早く、7日以上かかって効果が発現したものは3例のみであった。炎症期別では急性胃腸炎33例であつたがうち著効23例70%有効6例18%無効4例12%。慢性胃腸炎は26例のうち著効12例46%有効6例23%無効8例31%であり、急性胃腸炎の有効率が高かつた。下痢回数では1日6回以下の軽症は42例あつたがうち著効23例55%有効9例21%無効10例24%であつた。1日7回以上の重症は18例ありうち著効12例67%有効4例22%無効2例11%であり、下痢回数7回以上の重症例の有効率が高かつた。年齢別では40才以下の若年者に有効率が高かつた。腹痛の有無では腹痛の有る症例の有効率が高かつた。柴苓湯は若年者で腹痛のある急性胃腸炎の中で下痢回数1日7回以上の重症下痢症により効果があつた。

結論 柴苓湯を下痢症60例に対して非随証的に投与した。有効率80%で従来の止痢剤と同等かそれ以上の効果があり、副作用は経験しなかつた。